

Osaka Metro まちさんぽ

西長堀駅

60分
コース

千日前線・長堀鶴見緑地線 西長堀駅

阿弥陀池から土佐藩邸周辺を廻る

岩崎彌太郎が三菱を創業した西長堀

船場の西側はイノベーションのまち。

江戸時代を通じて、しきたりにとられない革新的な学問、思想、商売のあり方を先導した偉人たちが続々と出現しました。西長堀では知の巨人・木村兼葎堂と三菱の創業者・岩崎彌太郎ゆかりの地を訪ねます。



スタート駅

約 60分

ゴール駅

千日前線
長堀鶴見緑地線
西長堀駅
⑤号出口

1 阿弥陀池・和光寺

2 木村兼葎堂邸跡碑

3 岩崎彌太郎
土佐稲荷神社

4 司馬遼太郎
西長堀アパート

5 鯉座橋跡

6 玉造橋跡

7 伯楽橋

8 発祥の地
大阪木村市売市場

9 白髪橋跡碑

千日前線
長堀鶴見緑地線
西長堀駅

長堀川は船場の南側に接して木津川に通じ、江戸時代には大坂湾から出入りする人と物の幹線運河でした。西横堀川から下流は西長堀川と呼ばれ、土佐藩邸が置かれて、土佐から木材や鯉節が運ばれました。周辺には木材問屋が立ち並び、材木市場が立ちました。長堀川は昭和46年(1971)に埋め立てられました。

新型コロナウイルス
感染拡大防止のために

●体調が優れない場合のご参加はお控えください。 ●マスク着用の上、他の方と2m程度距離を空けてご参加ください。
●混んでいる時間帯を避け、会話を控えめにしてお参加ください。

西長堀駅
60分
コース

Osaka Metro まちさんぽ

千日前線・長堀鶴見緑地線 西長堀駅

阿弥陀池から土佐藩邸周辺を廻る

岩崎彌太郎が三菱を創業した西長堀

船場の西側はイノベーションのまち。

江戸時代を通じて、しきたりにとらわれない革新的な学問、思想、商売のあり方を先導した偉人たちが続々と出現しました。西長堀では知の巨人・木村兼葎堂と三菱の創業者・岩崎彌太郎ゆかりの地を訪ねます。

スタート駅

約 60 分

ゴール駅

千日前線・長堀鶴見緑地線西長堀駅⑤号出口

千日前線・長堀鶴見緑地線西長堀駅

1 阿弥陀池・和光寺

6世紀に仏教が伝来したとき、崇仏派の蘇我氏と廃仏派の物部氏が争って、物部氏が百済渡来の我が国最初の仏像を「難波の堀江」に廃棄したと『日本書紀』にあります。それがこの阿弥陀池とされています。仏像は推古天皇10年(602)に信濃の本田善光によって拾われて、のちに善光寺に祀られました。元禄時代に、阿弥陀池のそばに和光寺が建立されました。



2 木村兼葎堂邸跡碑

木村兼葎堂は、江戸時代中期の文人、画家、本草学者、蔵書家で、北堀江の瓶橋北詰の造り酒屋の長子として生まれました。書齋の庭に井戸を掘ったところ葎(兼葎)が出て、それを受けて号としました。幼少のころから好学多芸で、『兼葎堂日記』によれば延べ9万人もの来客があり、日本中の知識人が兼葎堂を訪ねて大坂にやってきました。膨大な蔵書は現在、内閣文庫に引き継がれています。



3 土佐稲荷神社・岩崎彌太郎

土佐藩蔵屋敷が長堀川沿いのこの地にあり、米、木材、鯉節、和紙、砂糖など土佐の特産物を扱っていました。敷地内に稲荷神社があって、大坂町民にも境内の桜見物が許されていました。土佐の岩崎彌太郎が、廃藩置県の際に土佐藩の負債を肩代わりする条件で船3隻を入手して海運業を始めました。明治6年(1873)に三菱商會を名乗り、それが三菱財閥の創業となりました。このとき彌太郎は土佐藩主・山内家の三ツ柏紋と岩崎家の三階菱紋を合わせて三菱の社章をつくりました。土佐稲荷神社の神紋のなかにも三菱が含まれています。



4 西長堀アパート・司馬遼太郎

日本住宅公団(現UR都市機構)の関西における高層住宅の第1号で、11階建です。作家の司馬遼太郎や作詞家の石浜恒夫らが入居していました。司馬遼太郎は産経新聞連載の『竜馬がゆく』をここで執筆しました。



5 鯉座橋跡

土佐橋、土佐殿橋とも呼ばれ、江戸時代初期に架けられました。北側には土佐名産の鯉節を扱う問屋が集まり、鯉座が形成されました。薩摩、阿波、上総、陸奥などからの鯉節も取引されたようです。



6 玉造橋跡

ここに玉造橋がありました。江戸時代の初めに大坂城玉造口の幕府与力・同心が増員のためにここへ移転させられたことで名づけられました。



7 伯楽橋

明治41年(1908)に市電専用橋として木津川に架けられた橋が伯楽橋です。伯楽という伝説の鳥がここにあったということから名づけられました。この地は木津川から運ばれる物資集散の要津でした。



8 大阪木材市売市場発祥の地

江戸時代初期に土佐藩の申請で、当初は立売堀川に、土佐屋敷が白髪町に移転すると西長堀にも、木材市場が許可され、土佐、日向、紀州、阿波、尾張などの木材が集まりました。以来、西長堀川の浜では昭和に至るまでここで木材市が開かれていました。



9 白髪橋跡碑

江戸時代初めに架けられた橋で、木材市場で土佐の白髪山の良材が取引されたことから橋の名前になったという説と、古代に大坂へ入港する新羅船が着岸していたので、新羅が白髪に訛って白髪町や白髪橋になったという説があります。

文中の「おおさか」表記には、一般呼称や明治以降については「大阪」、江戸時代以前については「大坂」を使っています。なお、掲載している情報は2020年6月時点のものです。内容は変更されている場合がありますのでご了承ください。

発行：Osaka Metro

協力：一般社団法人大阪あそ歩委員会 (お問い合わせ先)大阪あそ歩 info@osaka-asobo.info

後援：歴史街道推進協議会

このコースや他のコースの〈ガイド付きまち歩き〉については、下記の「大阪あそ歩」のホームページをご覧ください。

<http://www.osaka-asobo.jp> または で検索

ご注意

※まち歩きには歩きやすい服装で、足下や車などの往来に十分注意し、事故のないように各自で責任をもって行動してください。
※プライバシーにかかわる場所での写真撮影や大声での談笑はご遠慮ください。

ご案内

※駅スタンプは駅長室前に設置しています。参加記念にぜひ押印してください。

駅スタンプ押印欄

